

平成27年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第5回「昔の暮らしから学ぶ①」

(テーマ：生活)

□実施日時 平成26年8月21日(金) 10時00分～16時15分

□受講者数 9名

□実施場所 八王子滝山里山保全地域、梅里会館

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・体験

(ゲストティーチャー：NPO自然環境アカデミー専務理事 野村亮)

里山とはどのようなところか、里山と人とのつながりや、里山を生活にどのように活用してきたかを現場で見て肌で感じることによって、生物多様性や無駄のない生活を考えるきっかけとすることができる。これらの話を聞き、八王子滝山里山保全地域内に入り実際に体感した後、里山を維持するために必要な竹の間伐を体験し、古くから生活に活用されてきた竹のその活用方法を体験した。

八王子滝山里山保全地域の今と里山の関わりを里山の中で体感





竹の間伐体験



間伐した竹での「竹笛・おはし作り」体験



【午後】

3. 環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ！」

(講師：特定非営利活動法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹)

昔と現在の道具や暮らし方の違いを比べることによって、子供たちの感性を磨き、「もったいない」や「道具の使い方」を工夫することによって安全でより環境に優しい生活を考える力を育てるプログラム。

- ・昔の暮らしから学ぶ
- ・風呂敷編
- ・エコタイムマシン編

の3編を紹介。



(1) 子供たちに考えるきっかけを与える手法の一つとして里山新聞と昔の暮らし「川柳」作りを紹介。参加者は、川柳作りに挑戦。作成した川柳を発表 (以下抜粋)

- ・竹細工子供心がよみがえる
- ・屋敷林守は人の暮らしと人の心
- ・谷戸という地形に思う昔の暮らし
- ・どこまでも 無駄なく使う 古裂(こぎれ)屋か



(2) 「環境学習の意義について」 (各回共通説明事項)

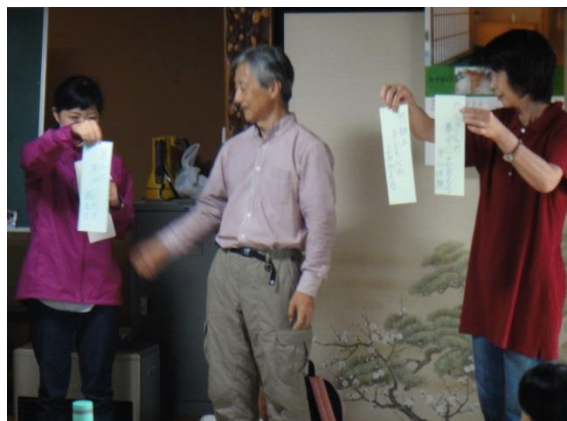
子供の健全な成長には、バランスよく理性と感性の両方を伸ばしていく必要がある。特に現代では、日常生活において実感を伴う様々な「体験」が不足していること、それゆえに学校において「体験」を伴う学習の必要性が増してきている。環境学習は、学校における各教科学習を基礎に、それら教科学習と関連させて実施することが大切である等の説明があった。

(3) まとめ（質疑応答及び発表、受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等と作成した川柳を、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者間で情報を共有した。

主な発表

- ・自ら感じることは何よりも重要。
- ・自然を守る重要性を認識できた。
- ・里山のすごさが感じられた。



5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後解散